

令和元年12月20日発行



緑小よんかけ

- 心をかけよう ○目をかけよう
- 手をかけよう ○声をかけよう



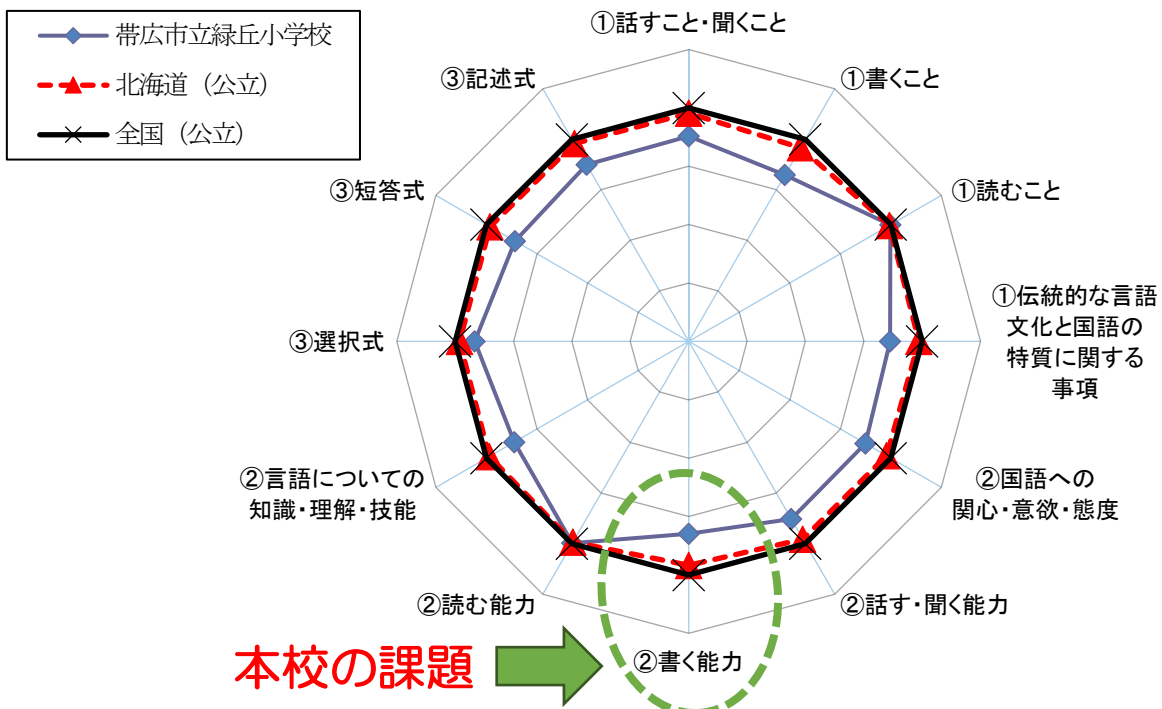
全国学力学習状況調査の結果

4月18日に6年生が実施した全国学力学習状況調査について、すでに北海道や帯広市における児童・生徒の分析結果が報道やHP等で公表されています。つきましては、本校の結果をお知らせします。今年度は基礎知識を問うA問題と活用力を問うB問題の区別がなくなりました。「国語」「算数」の2教科と「質問紙」を実施しています。

< 国語 >

今回の調査では、「読む能力」が全国平均とほぼ同じでよい結果となりました。国語の授業はもちろんのこと、日常的に読み聞かせのボランティアの方々に来ていただいたり、図書室の環境を整えていただいたりしたことで、子ども達が読書に親しみ、「読むこと」を楽しんでいることも大きな要因だと考えられます。

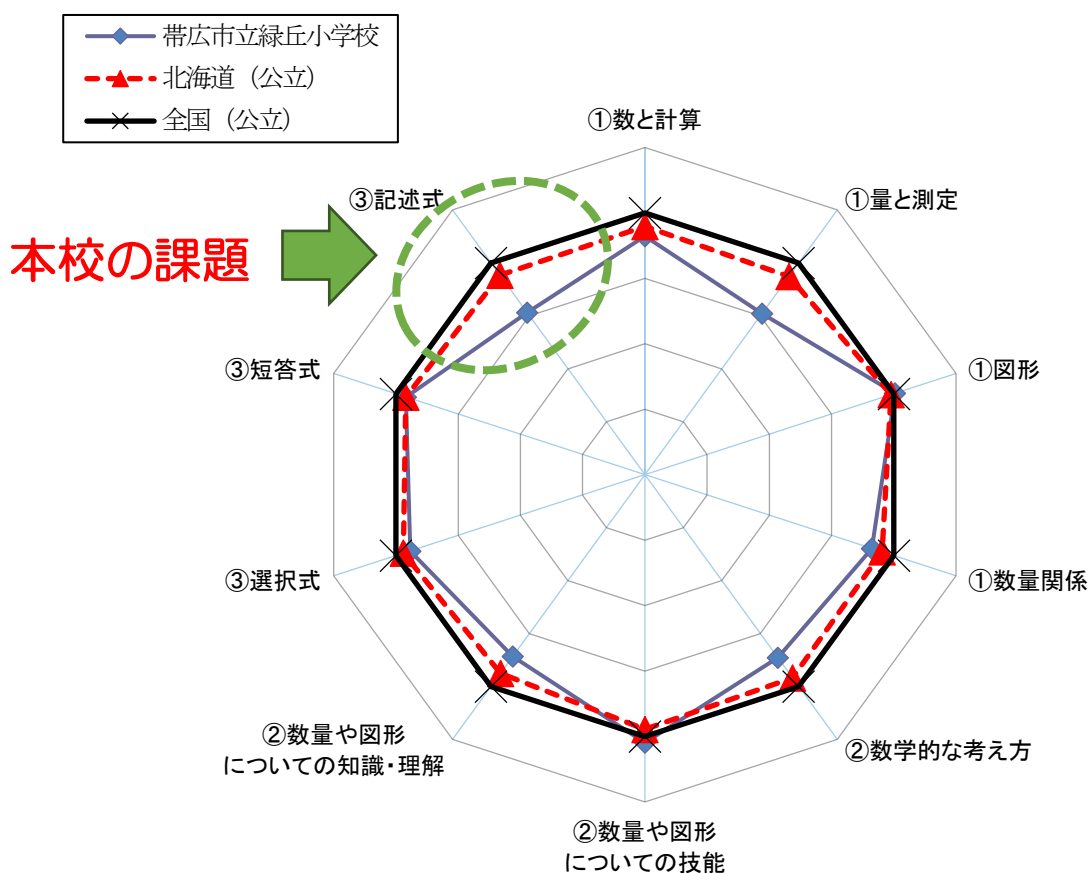
一方、「書く能力」には課題が見受けられました。特に字数制限や必要な要素を指定された回答方法など、授業の中であまり取り扱わない問われ方をされると戸惑うようです。多様な答え方に慣れ、どのような問われ方にも対応できるように練習する必要があります。限られた字数の中で日記を書いたり、いくつかのキーワードを入れて文章を書いたりするなど、家庭学習に取り入れてみるとよいでしょう。また、書くために必要な「語彙力」を高めることも必要です。そのために、「会話」はとても有効です。学校でもたくさんの言葉を吸収し、たくさんの言葉を発信できる機会を大切にしていきたいと思えます。ご家庭のご協力もお願い致します。



< 算数 >

算数では、「図形」領域が、全国平均を上回る結果となりました。算数の授業はもちろんのこと、日常的に物に触れたり何かを作ったりする経験が豊かな子ども達が多く、ご家庭での関わりが学習に生かされているものと思われます。一方、国語同様「書く能力（記述式の問題）」に課題が見受けられました。特に思考の過程や解答の根拠となることを説明する問題に苦手意識があるようです。全く分かっていないのではなく、答えは出ているのに、その解答の手順や根拠が説明できない子ども達が多いです。授業でも自分の考えを交流する機会を設けるように努めていますが、声に出すのと文章に記すのとでは、また違うようです。

日常的に、「はじめに…」「次は…」「最後に…」等、順序を表す言葉を用いて思考の過程を説明したり、「なぜなら…」「～からです。」等の言葉を用いて理由を説明したりできるように意識する必要があります。学校でも「聞く姿勢」を大切に、子ども達がゆっくり説明できる時間を確保したいと思えます。ご家庭でも、是非、取り組んでみてください。



< 児童質問紙 >

児童質問紙の結果からは、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童が全国平均よりも多く、自分の将来に対してしっかりと向き合い、考えようとしている姿がうかがえます。その反面、1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童の割合が45%と半数を下回り全国平均と比較しても20%以上少ない値となるなど、目標達成のための「努力」には消極的です。

今回の調査を通して、毎日宿題として家庭学習の機会を設けてはいるものの、その内容や量が不十分であることが明らかとなったとともに、計画的な家庭学習に取り組むことができていない児童の割合も30%近くいることから、家庭学習の見直しを図り、より質の高い学習の機会となるようにしていく必要があることがわかりました。そのためには、宿題の内容や量の見直しはもちろん、「家庭学習の在り方」について、ご家庭との共通理解を図り、協力体制を強化していく必要があります。そこで、家庭学習について、何かお困りのことやご質問がありましたら、遠慮なく、学校または担任までご相談ください。宜しくお願い致します。